

Rare sheep

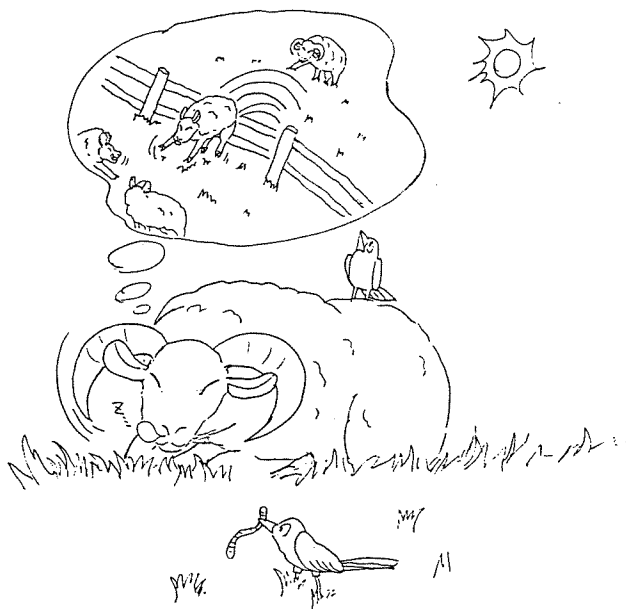


Manx Loghtan

No. 3

目 次

レア・シープと私（カリブ諸島の巻）	正田 陽一	1
原種羊のウールの不思議	百瀬 正香	2
マンクス・ロフタン種の白徴についてⅡ	井上 緑・百瀬 正香	4
マンクスと私	片井 信之	7
導入されたマンクスたちの系図	工藤 悟	8
1992年 マンクス・ロフタン登録	岩瀬 誠樹	9
マンクス フリース予約販売のお知らせ		10
みんな集まれー！！ 羊毛収穫際（予告編）		10
研究会オリジナル商品情報		10
誌上ギャラリー	堀内 真里	11
毛刈り・フリース扱い講習会のお知らせ		11
自己紹介		12
羊の美容室体験談	佐藤しおり	13
羊のティータイム	百瀬 正香	14
会員からのお便り&新会員紹介、編集後記		15



レア・シープと私 (カリブ諸島の巻)

正田 陽一

私の勤務していた茨城大学と東京大学には、それぞれカリブ海の島を原産地とするレア・シープが一品種ずつ飼育されている。バルバドス・ブラックベリー種(Barbados Blackbelly)とセントクロイ種(St. croix)で、共に柏原研究所プロジェクトの手によって導入されたものであり、次のような共通の特徴を持っている。

- (1)祖先種が西アフリカ原産で、黒人の移住に伴ってもたらされた羊であること。
 - (2)肉生産を目的としたヘアリー・シープ(Hairy Sheep)で、換毛(Shedding)すること。
 - (3)周年繁殖が可能で、産子数(2~4頭)が多いこと。
 - (4)耐暑性が高く、抗病性も優れていること。
 - (5)瘦型で、肉量がすくないこと。
 - (6)雌雄とも無角で、雄には「たてがみ」があること。
- などである。

バルバドス・ブラックベリー種は毛色が褐色で、その名の通り下腹部から四肢の下部にかけて黒い。現在、茨城大学の付属農場に飼育されているほか、農水省の宮崎種畜牧場にもジーンバンク事業の一環として繋養されている。本種の基礎となったカメルーン小型羊(Cameroon Dwarf)は、毛色・体型もそっくりで、私はミュンヘンのヘラブルン動物園で出会ったことがある。

また、バルバドス種の雌は山羊と属間雑種を作ることができるという報告がある。私は茨城大学に勤務していた時にシバヤギを使って追試したのだが、受胎はするものの皆40日ぐらいで流産してしまい、生きた雑種の子はとうとう生まれなかった。

東大付属牧場のセントクロイ種は、私の退官後に来場しているので、「擦れ違い」だ。ただ、この羊の導入で興味深いのは、胚移植(Embryo Transfer)の技術が使われていることである。東大とユタ州立大学の協力で空輸されたセントクロイ種の新鮮な初期胚を、予め性周期を同調させておいたサフォーク種の腹に移殖して誕生させたのである。この方法を応用すれば、マンクス種の導入の際に問題となったスクレービ症の心配もしなくてすむ。

この春には二世も誕生している。可愛らしい子羊の姿と母親の見事な換毛ぶりを、下の写真で見て頂きたい。



原種羊のウールの不思議

百瀬 正香

今回、正田先生のお話の中に換毛している羊の写真が載っています。マンクス・ロフタンも換毛しますが、これほど見事ではありません。少しボロボロでみずぼらしい感じがします。むしろ換毛する方が珍しいでしょう。今回、英国のマンクス・ロフタン5ヶ年調査でこの換毛能力も対象になっていますから、その結果がたのしみです。

換毛能力を持っている羊は、毛を刈り採るより引き抜くpluckedの方が羊のためにもウールを利用する者にも良いのですが、いくらか手間はかかります。一頭のウール収穫が3分、5分というわけにはいかないのですから。ただ、私も何頭かの羊（ソーエイでしたが）の毛を引き抜いた経験から、今ウールを収穫しているという実感と、羊をよりよく観察できる利点はありました。ここで問題なのは、換毛能力を少しは持っているけれど、という中途半端な羊です。このような羊は、毛刈りをしないわけにはいかないのですが、その時期が非常に難しいのです。ここに載せた何枚かの写真が、その難しさを如実に語っています。何らかの理由で毛刈りの時期がずれたため、いわゆる「欠点ウール」となってしまったものです。

写真①は日本のマンクス・ロフタン「モニカ」の1991年と92年のウールサンプルです。



1991年度

首

わき腹

お尻

1992年度

首

わき腹

お尻

背中

この羊は日本に入った中で一番ウールの伸びが悪く、腰の肉も落ちてしまって心配した羊です。子羊の面倒見は良く、ミルクもたっぷり、次の年にはボディコンディションも良くなってきたので、基本的には大丈夫だろうと思っていましたが、ウールの伸びは相変わらずなかったのです。特に92年の背中や首のサンプルを見ても分かるように（首はちょっと分かりにくいですが）毛先（右側）がフェルト状になってしまって外見から見ても大きな毛玉をブラブラつけているようで決して美しくないのです。ウールの質は柔らかく、申し分ないのにです。この原因は何か。今回、このサンプルを持ってイギリスへ行きました。マンクス・ロフタンを飼育している人たちはこれを見るなり関心を示し、病気ではないと思う、換毛の仕業ではないか、と言いました。ステーブル長が短い、というのも換毛タイプの特徴のようです。換毛能力が不十分で抜けきれない羊がいるとは、言われるまで気が付きませんでした。考えてみれば、そのような羊がいて、おかしくはないのです。このウールが一旦切れたようになっている所は病気や成長が止まったのではなく、換毛するため止まったというのです。ですからこれは、本来は91年の毛であ

写真①：日本のマンクス・ロフタン
1989生まれ、メス、線引きは5cm

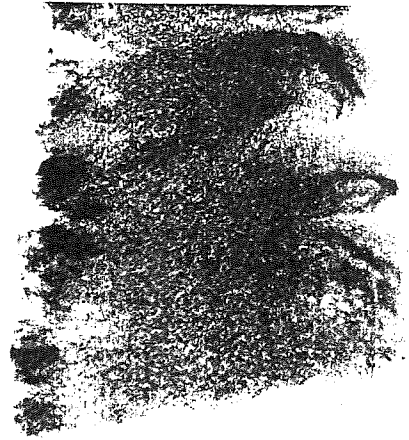
って毛を刈るのが早すぎたというのです。4月に刈ったわけですから、5月末位までほおっておいたら、首や腰の辺りが換毛したかもしれません。次回はちょっと様子を見ようと思います。

写真②は、イギリスの飼育者たちが写真①の逆の例として見せて下さったものです。92年度に刈り取った毛ですが、今年は毛刈りシーズンが冬のように寒くて、毛刈りができず、いつもより1ヶ月ほど遅らせたら、このようになったというのです。換毛するため 一時ウールの成長が止まり新しい毛(左・色の濃い部分)が1センチほどのびてきたときに刈り取られてしまったのがよく分かります。

以上のようなことを理解して改めて原種のフリースを見てみると、このような現象がかなり見られます。写真③はノース・ローノルドセイのステープルです。左の濃い部分が新しいウールです。この羊は英国の北海の小さな島にのみ生息し、海藻を常食にしている世界でも唯一の羊ですが、気候の関係で8月に毛刈りされます。8月といえども新しいウールが2センチ程も伸びていますが換毛能力が完全でないため抜け落ちず、かといって気候的には早く刈れず、このような結果になるのでしょうか。

原種の羊のウールには多くの不思議がありそうです。日本のマンクス・ロフタンを観察しながら、文献を読み、人を訪ねて調べたらおもしろそうです。

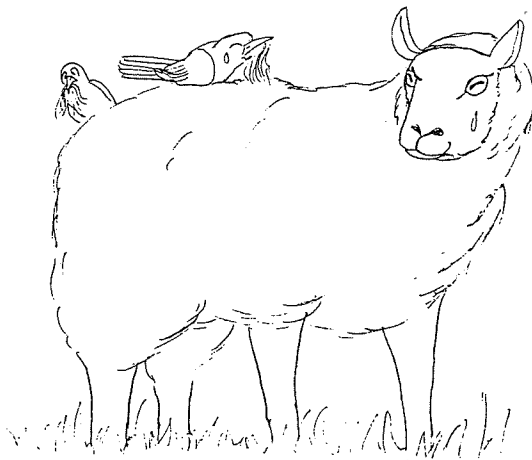
どなたか原種羊のウールに関して情報があったらお知らせ下さい。



写真②：英国のマンクス・ロフタン
フリース長10cm



写真③：ノース・ローノルドセイ
フリース長10cm



マンクス・ロフタン種の白徴について II

訳：井上 緑 文責：百瀬正香

前回に続いて今回も白徴の問題を取り上げます。今回は、R. B. S. T. (希少家畜保護団体)の月刊誌に投稿された読者からの手紙と、それに対するトラストの見解です。

日本のマンクス・ロフタンを、いつまでも英国に登録しておくことは本意ではありません。日本にマンクス・ロフタンを導入した時から、いつかは日本独自の管理をしていきたいと思ってきました。その時、この白徴をどのように捉えていくか、今から皆で考えていきたいと思っています。

《マンクスのマーキングについて W. M. & L. C. Scott》

マンクス・ロフタンのブリーダーとして、今年度より白徴のマンクス・ロフタンがR. B. S. T. に登録が認められない事を知り驚いている。それは1956年ソーエイの雄羊交配によって生じたソーエイ・タイプ(注1)のマーキングではなくマン島時代、あるいはそれ以前の四肢、尻尾、頭部などに見られる伝統的マーキングのことである。(レターズ2号の写真参照)このタイプのマーキングの歴史は古く、今日、ほとんどの群がこの白の遺伝子を持つと思われるのに何故、突然このような決定がなされたのだろう。その意味することは、白の遺伝子を有する羊はすべて「消し去れ」ということなのか。もしそうであるなら英国本土にマンクス・ロフタンは、ごくわずかしか残らなくなってしまうだろう。

マンクス・ロフタンが「稀少種」として、R. B. S. T. のカテゴリーにあるのに、伝統的な色のバリエーションを見せるという理由だけで血統種としての生育を制限されるのは少し妙なものである。前年度に両親が共に純血種と登録されていても、その子羊がどんなに遅しく、健康であっても、もし白徴を持って現れたら登録されないという事実が生じることも不思議なことである。このように、純血種の登録を拒否することによって種の「改良」を行うということはR. B. S. T. のすべきことではない。次回は「スタンダード」という名のもとに何が犠牲になるのだろう。2本角?あるいは無角?(そのため逆にスピット・アイリッドが奨励されるのだろうか(注2))

一時、英国山羊協会が、より好まれるからと無角の山羊だけを登録していたことがあったが無角同士を交配した時、雌雄同体の子が多く生まれるようになった。それに気がついた時は、ほとんど時遅しという状態だったのだ!!この事実にも留意しておいて欲しい。

この新しい登録スタンダードは一体何のためなのか。「愛らしい羊」を創るため、この種の特徴である遅しさ、勤勉さ、母性本能などを排除しようとしているのだろうか。度々広告に登場し、名をあげるがため本来の牧羊犬としての能力を失ってしまったオールド・イングリッシュ・シーブドッグと同様の道をマンクスもたどることになるのだろうか。

商業的に生産可能と認められるまで、この種が「稀少」であることに変わりはない。私たちは、この種がターミナル・サイヤーによって異種交配された時、商業性ある子羊を生み出せるように良質で健康的な繁殖用羊を作るようにしなければならない。そうすれば、もう一度農業社会から受け入れてもらえるかもしれないのだから。ただ、単におもしろい、めずらしい生き物というだけの羊になってしまったら、優れた、頑強な血統をも失って公園用羊となってしまいうだろう。

他のブリーダーたちが勇気をもって、この件について、はっきりした立場をとってくれることを願っている。過去にも品種改良に反対する手紙がいくつかあった。そのような人たちの力がこの登録基準の気まぐれな傾向の再考を呼び起こしてくれればと祈っている。(1988年8月)

《マンクスの問題 R. B. S. T. Chief Execution Alastair J. Dymond》

W. M. & L. C. Scott両氏の手紙を興味深く読ませていただいた。両氏はトラストの横暴な体制型やり方を責めておられるようだ。両氏や他の人たちのため、1974年登録簿第一巻のマンクス・ロフトンの白徴について述べてある部分を紹介しよう。

「今日、マンクス・ロフトンの毛色は濃い茶から黄褐色に至るまでの茶色である。

ロフトン種は、ごく最近まで存在していた多岐にわたる色の中から現在の明るい茶色を選択することによって徐々に確立されてきた。

マン島のブリーダーはいかなる白徴も認めていない。」

14年前、すでにロフトン種が歩もうとしている道がここに暗に示されている。

次に1975年、登録簿第二巻には次のように述べられている。

「顔と四肢は濃い茶色であり、白徴は望ましくない。」

これは多分野の学者や専門家諸氏からなるトラストのアドバイザーたちが白徴をマンクス・ロフトン種の構成要素とする意志は毛頭ないという初期徴候であった。

1982年の登録簿第九巻を見れば白徴が好まれないことが更に強調されている。

「白徴は不適格ではないが望ましくない。同様に、しばしばフリースに見られる白いポッチも望ましくない。」

以上のことで分かるように、トラストは厳格な権威主義的な方法をとってはいない。今年14年目にして、はじめて望ましくないとされていた白徴が「不適格」となったのである。それゆえ、常に望まれていなかった白徴を排除したからといって、この種の特性である、遅さ、勤勉さ、母性本能に何ら影響はないと思う。実際トラストは雌羊を交配種としてその商業価値を極めて高く考えてきた。トラストによるカード・グレーディングの導入も知識豊富なブリーダー達に理解され、明確なマンクス・ロフトン種を維持する手助けとなってきた。つまり賞を獲得するための「愛好家の羊」を目指しているのではないのである。

最後に種の基準は数々のトラストの協議会を通し詳細にわたる諮問なしには変更不可能であることも知って欲しい。どんな修正事項もまず登録・調査副協議会に提案され、それがそこで認定されれば品種連絡協議会に提出する。品種連絡協議会は更に協議を重ね、必要ならば科学諮問協議会にも申し立てる。最終的にはトラスト委員会が品種連絡協議会の決議を修正認定というかたちで承認するのである。もしトラストが高圧的な態度をとっていれば1974年の時点で白徴は、はっきり拒否されていただろう。そうなってれば、皆もよく知っているように他の種を導入したこと(注3)によって広がった白徴のためにマンクス・ロフトン種は抹殺されていたかもしれないのだ。

このような説明によって、トラストの方針が、種の遺伝子を維持していくということより、形態の均一性に重点をおいているのではないかと、恐れているブリーダーたちの不安をいくらかでも軽くすることができたであろうか。「ショー&セール」において、その競技会に参加しているマンクス種を御覧いただけたら、その意味がはっきりお分かりいただけると思う。そこでは、姿、大きさ、その本数と、変化に富んだ角やフリースの密度、そ

の長さの違い、様々なタイプを見ることができる。英国本島で飼育されているマンクス種には、「ふさふさ」といえる程、長い毛をもっている羊もいる。反対にオリジナルのマン島には比較的短い毛の羊が多くいる。それは、恐らく大西洋から吹く激しい風から身を守るためなのだろう。

今年の「ショー&セール」において、マンクス・ロフトンシープ・ブリーダーズ・グループが成立したことは大変、喜ばしいことであった。ここにおいて、ブリーダーたちが情報交換し合いながら、魅力ある羊飼育を楽しみ、又恐らく商業的に成り立つ羊であるゆえに飼いつづけていかれることを希望する。（1998年10月）

皆さん、どのような感想を持たれたでしょう。

英国では、この白徴羊の登録が認めらなくなった1988年を前後して数年間、この問題はトラストの月刊誌を賑わし、ブリーダーが集まれば話題となってきました。けれども現在、トラストの方針が浸透し落ち着いています。

さて、日本では、この白徴が原因で3頭の日本産マンクス・ロフトンが登録失格となっています。次回はそれについて報告するつもりですが、この問題をどう捉えていくか、皆さんの御意見、感想もお寄せ下さい。お待ちしております。

注1：ソーエイ・タイプとは下腹部分が白くなっている。

注2：スピリット・アイリッドは上まぶたがたてに裂けて、完全に目を閉じることができない症状。そのもの自体特別害はないけれど、舎飼いの場合、目にワラやゴミ等が入りやすく炎症を起こしやすい。原因は今の所、はっきりとはしていないが、4本角の遺伝子との関係が問われている。

注3：過去にマンクス・ロフトンの雄が極端に減った時、群の強化ということでソーエイの雄を入れたことがあった。ところが意に反して、ソーエイとマンクス・ロフトンはあまりにも異なった特性を持っていたようで、その子羊たちは、ほとんど皆、ソーエイ模様を持って現れた。そのため雄を徐々に消していく方針をとり、繁殖用には使用しないことにしたが時すでに遅く、その模様はマン島中に、英国本島にまで広がってしまった。（注解：百瀬正香）



マンクスと私

片井 信之

今から数年前、千葉市動物公園で初めてジャコブに出会った。見た目ではあまりにも邪魔そうな大きな4本角のみが、印象に残った。そして、アメリカのワシントン州の田舎にコビトコブウシを訪ねた時、その牧場で再びジャコブに会い、4本角をもった羊が、私の頭の隅に残り続いた。

そんな折、3年前ジャコブではなく、マンクス・ロフタンを実際に富士自然動物公園で飼育する機会を得ることになった。

動物には、いろいろな角をもった種類がいる。

大別すれば、サイの角（毛状の繊維が固まったもの）

キリンの角（頭骨が隆起し、皮膚に被われているもの）

シカの角（カルシウムが沈着して骨のように硬くなったもの）

そして、ウシの仲間の角（骨質の芯にさやをかぶったもの）

羊の角は、当然ウシの角と同じ構造である。

一般的に角は、武器として使用されることが多い。動物の雄は、発情期ともなれば、雌を奪いあうのに、その角と角とをからめ合わせながら闘争をし、優劣を競う。角の大きさがその勝敗を左右することが、ひとつの大きな要因となることは、シカなどを見ていると確かである。しかし、同じ仲間では、武器としては使用するが、決して相手を傷付けたり死なせたりは出来ないメカニズムが組み込まれており、その巧妙さには感心する次第である。（しかし、例外も多いようで、マンクスでは実際に相手に負傷を負わせた例が発生している。）

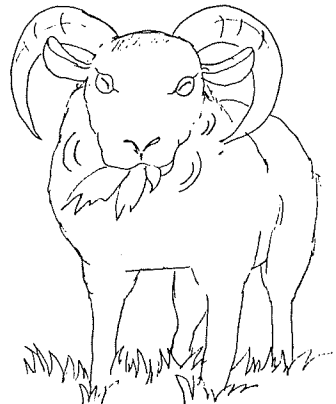
角の本数について、普通、左右一対をもつ動物が大半である。キリンは、左右に二対と目と目の中間に1つある。しかしキリンの角は、耳の後の一対をのぞいては、他の3つはただ単なる低い隆起物としか見えず、角らしくない。

ジャコブとかマンクスの体のわりには異常としか思えないほどの大きな角と、二ないし三対の角をもつ動物は、珍獣としか思えないのは、私だけだろうか？何故こんなに大きく複数の対をした角をもつようになったのか？

毛とか肉については全く無知な私ですが、何らかの方法でこれら、角についての疑問が少しでも解明出来るようになればよいと思いつつ、窓の外のマンクスをながめている毎日。

富士自然動物公園のマンクスを少し紹介してみると、現在8頭いる。英国から来たオス1頭とメス3頭、そしてこの3年間に生まれた4頭の二世たち。一般のお客にはまだ公開してなく、飼育事務所の一隅の雑木林の中に放たれている。昼夜を問わず終日、雑木林の中でのびのびと生活し、雨や雪にも耐えている。

今後、これらの繁殖について、近親交配をさけながら、どのように継続していくか。これはレア・シーブに限らず、現在の動物園の動物増殖にも同じ課題をせまられている。マンクスの増殖プログラムが、きっと動物園での野生動物増殖にも役立つことと思う。



導入されたマンクスたちの系図

工藤 悟

今度、正田先生に御指導いただいてマンクスたちの系図が出来上りましたので紹介致します。線が余りにも多く交差しているため大変見にくいものですが、これはいかにマンクスたちが近親交配されているかを表しています。

3415以外はどこかで共通の祖先で結ばれています。中には親子、兄弟姉妹の関係の個体が存在しています。

今回3回目の交配を終え、また、日本で誕生したマンクスたちの中には繁殖に使えるまでに成長した現在では、導入した20頭のマンクスたちが、どの程度の近親交配によるものかを知る事は、これからのマンクスの繁殖計画に大いに役立つものです。

そこで近親交配の程度を判りやすくするために数値で現すことができます。それを近交係数と言い、導入されたマンクスの個体番号の下の数値がそれです。数値が大きいほど、近親交配の程度が高い事を表わします。今後の繁殖計画は、この系図を使いなるべく血縁関係の程度が低い組み合わせを作らなければなりません。

1992年 マンクス・ロフトン登録

まかいの牧場 岩瀬 誠樹

今年も無事Manxの登録が終了し、ブリダーの方々も一段落ついた事と思います。

2年前日本へ来た時は20頭でしたが、その後順調に増え続け、92年は12頭(♂8♀4)の羊を登録しました。登録するに当たって今回もホワイト・マーキングや去勢等の問題がありましたが、ひとすじなわでやっていけないのが又、Manxを飼育する楽しみだと私は感じています。日本で生まれ、日本で育っていくバイキングの羊、ゆっくりですが、確実に群れを広げていきましょう。さて…来年の出産準備もしなくてはなりません。今度はどんな子羊達と出会えるでしょうか？角は何本あるでしょうか？興味はつきません。

☆R. B. S. Tへの純血種登録は以下の通りです。

D.B.	SE	種♂	母	角の数		D.B.	SEX	種♂	母	角の数
百瀬 : 3/23	♀	L3964	L3866	2		本庄 : 3/02	♂	L4895	L3867	2
: 4/05	♂	L3964	L3418	2		: 4/06	♂	L3891	L3921	4
: 4/16	♂	L3964	L3985	4		本間 : 2/25	♂	L3999	L3902	4
富士 : 3/13	♂	L3473	L3925	4		: 3/21	♀	L3999	L3319	2
サワリ : 3/13	♀	L3473	L3925	2 双子		: 3/26	♂	L3999	L3898	4
: 3/26	♂	L3473	L3875	4		: 4/14	♀	L3999	L4899	4

マンクス フリース予約販売のお知らせ

今年刈り取られたマンクス・ロフトンのフリースです。是非お試しください！！

3頭分、4点となっておりますが、何点でも応募可能です。締切りは1月20日。事務局までお寄せ下さい。また、応募多数の場合はこちらで抽選とさせていただきます。なお、2月上旬、フリースの発送をもって発表に代えさせていただきます。

羊の個体No.	フリースの重さ	毛長	特徴
3415 (♀3歳)	1.25kg	肩7.5 cm 脇11cm 太腿10cm	マーブルカラー・きれいでソフト
3875 (♀2歳)	1.25kg	肩11cm 脇9cm 太腿8cm	均一に整っていて密なウール
3925の仔(♀1歳)	1.1 kg	肩15cm 脇17cm 太腿12cm	パーソンウール 淡~濃色 ソフト

※このフリースは、背中から半分に分けて販売する予定です。

計4点 すべて 4000円/kgです。

みんな 集まれー！！ 羊毛収穫祭

予告編

レア・シープ研究会が発足して1年になろうとしています。

太陽のもと、皆で集まり、羊談義、ウール談義に花を咲かせましょう。

マンクス・ロフトンもその時にはスタンバイして羊毛を収穫させてくれることを願いつつ…皆でウールを「引き抜き」(plucked)ながら、肉に舌つづみをうちながら。

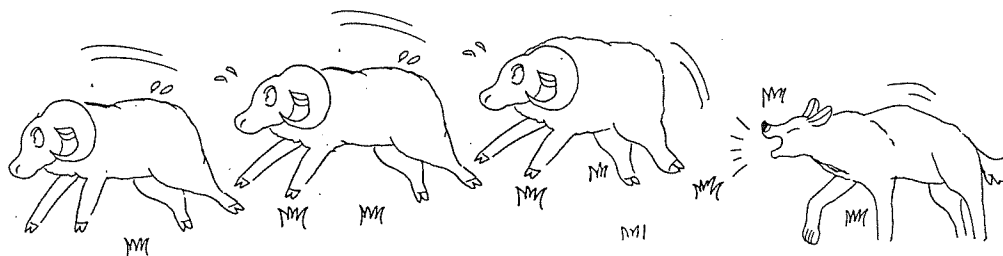
羊の肉、初体験という人大歓迎！！ トライ トライ トライの一日です。予定に組み入れておいて下さい。

月・日 1993年4月20(火)

場 所 まかいの牧場(静岡県富士宮)

研究会オリジナル商品情報

只今マンクス・ロフトンのイラスト入り便箋と封筒を制作中です。どうぞご期待下さい。また、今後さらにオリジナル商品の制作を検討しております。皆様からのアイデアを募集しています。





堀内 真里

マックス・ロフタンに初めて会ったのは、1年ほど前まかいの牧場へ行った時でした。小さい体、細い足、すばしこい動き…想像していたのとはまるでちがいました。のんびり草を食んでいる横に並んで一緒に写真を撮りたいと思っていたのですが、逃げ足の早さに記念写真はあきらめました。その後、レア・シープ研究会の発足会でマックスの原毛がひろうされ、今度は手で触れてじっくり感触を確かめることができました。こげ茶、明るい茶、灰色がかった茶、赤みがかった茶など多彩で、生きた羊では気づかなかった色の豊かさに驚きました。このマフラーは、まかいの牧場2種類とポンタさんの所で購入した原毛を使いました。(1本約90g)色も柔らかさも長さもちがう3種類の原毛は、紡いでみるとそれぞれ個性が感じられ、交ぜ合わせて紡ぐと又表情がちがってくるおもしろさがありました。その変化のおもしろさを追いかけるように1本ずつ楽しく織ることができました。今頃、5本のマフラーはそれぞれ誰かの襟元を温かくおおっていることでしょう。

毛刈り・フリース扱い講習会のお知らせ

来春は、講習会を2か所で開くことになりました。前回に引き続いて受講する2年目のクラスと、初めて受講する1年目のクラスです。羊にやさしい毛刈り、フリースの正しい仕分けを習得し、改めてウールの価値を問い直してみましよう。

●まかいの牧場(静岡県)

1993年3月18日(木)～19日(金)の2日間の予定

●小岩井牧場(岩手県)

1993年5月13日(木)～14日(金)の2日間の予定

対象=羊の飼育者(各場所10名) 協力=日本綿羊協会

詳細は、レア・シープ研究会事務局までお問い合わせください。Tel.0467-47-5516

自己紹介

◆^{えんどう}圓藤 泰久

1934年3月14日生まれ、当年として58才。福岡県北九州市若松区出身。15才より編物屋に弟子入りし、今日まで編物一本で44年目を迎えています。子どもの頃よりスケベエで、女性のバスト・ウェスト・ヒップを計ってオーダーニットを制作することを一生の仕事と決めた次第です。只今は残念ながらブレタニットを制作してしまし、ピンクハウスやメルローズとやらのデザイナーズ・アンド・キャラクターブランドの製品を主にやっています。それも鉤針編や棒針編、そしてブラザー編機やシルバー編機での手作り製品です。生産は主に中国江蘇省でやっています。

将来のライフワークとして、羊の牧場の中にアトリエを作り、編物屋をやりたいとの思いがつのり、今年1月より阿蘇小国町に羊が入りました。羊が只今26頭います。九州も羊の飼育に適していると思います。皆さん、九州においでの際は節はお声を掛けてください。露天風呂の近くの我がゲストハウス(?)にご案内いたします。



◆大倉 真実

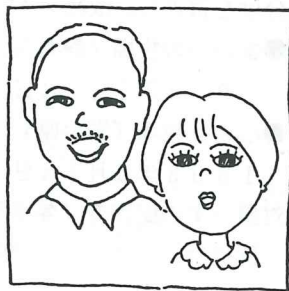
昭和42年1月15日生まれ、大阪に住んでいます。今年の10月20日まで珈琲会社で事務員をしていましたが、今は無職です。趣味は音楽鑑賞、読書、旅行などです。羊に興味があるというだけで入会しました。哺乳類と鳥類は全般的にどの種も好きで、特にワシカ目の鳥が好きです。(レア・シーブ研究会に入りながら不屈きな奴かも知れませんが…)野性の羊にも興味があります。昔、テレビの自然番組物で多分ムフロンだったと思いますが、母羊が子羊を守るためイヌワシに向かっていくシーンがあって感動したのを覚えています。家畜となった羊は本当にいろいろな品種がいるのですね。これら全品種の羊を残していくのは難しいことかもしれないけれど、残ってほしいと思います。家畜の動物もいろいろな品種がいつけた方がいいと思います。ほとんど感想となってしまいました。こういう私ですが、よろしくお願いします。

◆吉田 誠・喜久子

(誠) 計画の生物へ及ぼす影響とその評価対策を考える自然環境アセスメントの仕事始めてそろそろ20年。仕事の内容もだいぶ変わってきました。経済優先ではなく、自然の大事さがようやく認識されてきたようです。自然、それは人間が生きていく上で基礎となるものです。羊を通してその大事な自然と人間について考えていきたいと思っています。

(喜久子) 生まれも育ちも東京で、羊には全く縁がなかった私です。ところが学生時代に始めた「手織」に夢中になり、気付いたら「布」→「糸」→「原毛」→「羊」のメエ〜路に迷い込んでいました。ワクワク!ドキドキ!ヒヤヒヤ!の毎日ですが、レア・シーブ研究会も、こんなメエ〜路の一つでしょうか。

これからも羊をめぐる楽しい毎日にとっています。どうぞよろしくお願いします。



羊の美容室体験談

佐藤 しおり

8月12日友人と二人、始発の山手線に乗りました。各駅停車乗り放題きっぷを手に、朝の弱い私もさすがに心はウキウキ、なんたって目指すは北海道、茶路めん羊牧場のある白糠。上野、黒磯、郡山、福島、仙台、一ノ関、盛岡、青森、函館、札幌、滝川と11回も乗り換えてなんと36時間！すっかりお尻が四角くなって、睡眠不足と腰痛に泣きながらも、心は夏の羊牧場へとひとつ飛びしていました。

8月15日、いよいよ羊の毛刈りの日。茶路めん羊牧場の武藤さんと田口さん、ちょうど遊びに来ていた羽田野明子さんと私の友人の村松さんの5人で出発。途中で増田愛二郎さん一家と内山礼子さんと合流。依頼のあった羊牧場は十勝の忠類村です。

北海道らしい景色にうっとりするのもつかのまに到着し、初対面の挨拶が簡単に行なわれている間、早くも羊小屋ではよからぬ雰囲気を感じ取った羊たちがメーメー、デーデーと騒ぎ始めていました。準備が手順よく進められ、いよいよ毛刈りが始まりました。

武藤さん、田口さん、礼子ちゃん、愛二郎さん、それぞれが髪をふり乱し、メガネは落ちそうに耳に引っ掛かり、刈る時に下を向くので顔は真っ赤っ赤。とても寒い日だったのに、汗はポタポタ落ちてそれぞれブレスごっこのようにバリカンを振り回しています。

大きい羊に当たると悲鳴をあげ、小さいのに当たると得をしたと喜びながらも、刈った毛を袋に詰めるのが、私と村松さんでは間に合わない程のスピードで刈り上げます。

とても楽しんでいるとは思えないハードな仕事なのですが、皆底抜けに明るく、冗談がボンボン飛び出しています。1回の休憩をはさみ、午後1時頃に約80頭を刈り上げ第一ラウンド終了。お昼を食べ二軒目へ移動。3時頃から第二ラウンド開始。

あたりには民家も見えず、広い広い静かな土地の小さな牧場の隅っこで、またもやバリカンのブイ〜ンという音と、つかまえられた羊の「助けてェ」とメーメー鳴く声がハーモニィーとなってこだまするのでした。約30頭のうち、運の悪い最後の1頭は私もやらせてもらい、他の羊より傷をいっばいつけられ、トラだか羊だか分からなくなって逃げて行きましたが、皆が底抜けに明るくなってしまう羊の毛刈りの醍醐味を味わった気がしました。

そして、羊たちがきれいになったかわりに、汗や羊の脂やいろんな汚れで、みんな全身ドロドロになって、この日の羊の美容室は閉店しました。

8月18日、運良くとれた飛行機で東京へ帰ってきましたが、行きは36時間で帰りは1時間半。果たしてこの北海道は遠いのか近いのか?! 複雑な心境です。



羊のティータイム (II)

羊洗い sheep-washing

百瀬 正香

イングランドのコッウォルド、ケルムスコット村。そこには、ウィリアム・モリスの晩年の家とお墓があり、その近くには小さな川が流れています。テムズ川の上流、ローカル名インス川。ギリシャ神話の神の名です。

このシーン……確信に近い程のインスピレーションが湧いてきます。「羊洗い」それがここで行なわれていたにちがいません。本で読んだ描写そのままです。羊を待機させておくための小さな広がり、羊を深い所から浅瀬へ移動させるための自然なカーブ、日射しを遮る柳の木、すべてこのような所で羊を洗っていたわけではありません。ただ、モリスの家が荘園だったこと。荘園主は必ず、自分の領土内に羊を洗う川を持っていたといえます。

「羊洗い」その歴史は大変古いもので、「ソロモンの歌」の「羊の群」という詩に「毛を刈るために洗われた羊が帰ってきた」と、歌われています。この時代すでに毛は引き抜く方法でなく刈り採っていたことが分かります。又、「羊洗い」はここで明らかになっているように毛刈り前、毛を綺麗にするため、余分なグリースを落とすための作業でした。

国や地方によってその方法は少しずつ異なりますし、時代によってもかなり変化してきますが、一般には川に羊を入れ、川の流れを利用して、フリースを一頭ずつ丹念に洗っていったようです。19世紀のアメリカの記録では、男性4人とひとりふたりの少年で1日750頭の羊を洗うことができたといえますし、17世紀のイギリス・ヨークシャーでは洗う人がお尻を上手に使うと川の流れをせき止め、一人一頭ずつ洗い、125頭洗った時点で暖をとるため、エールにつけたパンとコショウ、ナツメグの入ったミルクを飲んだといえます。そして、子供が、抜けそうになっている毛を前もって引き抜いたり、川の中に落ちた毛を川下に流れないようにステックで集めたりと働いていたようです。

オーストラリアでは、細い毛の羊が多く、洗い方もかなり綿密でした。川で2～3日子洗をした後、一頭ずつゴシゴシこするように洗ったり、川の流れに逆らって川上に向かって泳がせたりしたようです。ローマ時代でも細い毛の羊は他の羊と区別し、予洗をしていたことを思うと、このような羊は大事にされていたことが分かりますし、実際手間もかかったのでしょう。

キプロスの羊は川ではなく、海の入江で泳がされていたようです。ヴィーナスが誕生したその海ですからきっと綺麗になったことでしょう。

イランでは、今でもカーベットののための羊は背中だけを洗い、刈り取った後再び洗ったりしないといえます。

このように色々な方法で洗われた羊は、しばらく綺麗な小屋や、柵の中に留めおかれ、脂がほど良く分泌してきた頃、毛刈りされました。汚れもなく、適度な脂はハサミやバリカンの動きをスムーズにしたことから毛刈り作業が大変楽なものになったといえます。

日本の羊を温泉の川で洗って「媒染要らずの植物染めフリース」
こんなアイデアはいかがでしょう。

会員からのお便り & 新会員紹介

◆羽田野明子

レターズいつも楽しみに拝見させて頂いてます。羊のことを色々知りたいという理由で入会させて頂いた研究会ですが、会員名簿を見ておると、羊に関する各分野のプロフェッショナルがよくもここまで結集したものだと感じてしまいます。研究者や飼育者、そしてスピナー。羊という共通のものを追いかけていながら、あまり接することのなかった人達と車座で話し合えるというのはなんとも魅力的です。

数年前ふと羊に出逢い、その後ずるずると引き込まれていった私自身の現在の肩書は、とりあえずスピナーですが最近羊のこととなると何にでも首を突っ込む始末です。肉のこと、飼育のこと、果ては毛刈りにまで…あれもこれもとかなり欲張りですが、知れば知るほど本当におもしろいものだと思います。一介のスピナーをこれほどまで虜にってしまった羊には、底知れぬパワーがあるような気がします。大好きな羊のために彼らが持つ魅力をひとつでも多く世に送り出すお手伝いできればと思っています。会の活動で何かお手伝いできるでしょうか。簡単なニットの制作でしたらさせて頂きたいと思います。

会員の方々はそれぞれ仕事を持ち、忙しい日々を送りながらの研究会活動、かなり厳しい面があると思います。しかし、ここに灯った小さな灯が消えぬようにと願うばかりです。

◆豊岡 伸子

今年の秋はとても穏やかな日々が多く、何かと仕事（遊び）がはかどりました。そして羊の繁殖も無事終了。ただいま来年の出産に向けて準備中です。

シーブジャパンNo.4に出ていた「舎飼時の飼育給与～」を読んで以来、飼料計算の毎日です。普段こんな複雑な計算をすることがないのでパニック状態です。でも、実際に計算してみると見直すべき点などが分かり、良いこともありました。後は、金銭的にどこまでゆるされるかが最大の問題です。餌を食べている羊たちの背中を見ながら「たくさん食べて良い子を産みなさいネ。そして春には良いウールを刈らせてヨ。」と毎日言い聞かせています。プレッシャーのかけすぎかしら？ それでは子羊が生まれた頃またお便りします。

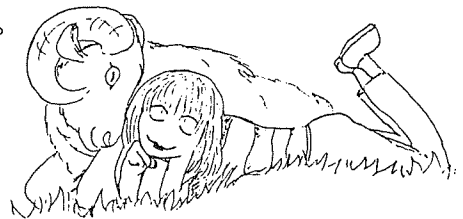
◆新会員

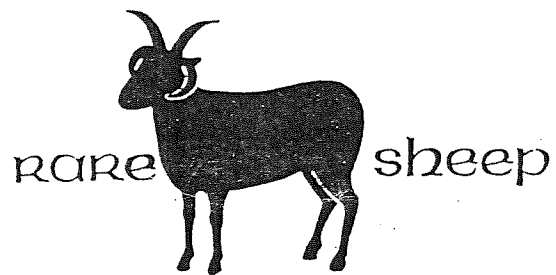
近藤 知彦 〒006 北海道札幌市手稲区富丘5条5丁目5-34 Tel.011-682-6874

神足 義博 〒198 東京都青梅市長淵4-393-11 TOD (株)ポラン広場の宅配
Tel.0428-24-9891 Fax.0428-24-9892

編集後記

いよいよ冬本番！ 子どもの頃は冬なんて大きらいだったのですが、羊とスキーに出会ってからは寒くなるとういウキウキしてしまいます。レア・シーブ研究会の会員になっているいろいろな刺激を受け、「ひゃー、こんなすごい人たちが集まる会なんて珍しいんじゃないの」とあせております。研究会のこれからが楽しみです。（佐藤しおり）





1992年12月発行 第3号 (年3回発行)

編集・発行 ●レア・シープ研究会 百瀬正香

〒247 神奈川県鎌倉市大船6-10-58

Tel. Fax. 0467-47-5516